

研究速報

5. 結論

分子量が100~400のTOC物質については、R-NaCl再生排水を除き生物処理が有効である。UV感知物質については、生物処理よりも活性炭処理の方が有効であり、特に波長265m μ 前後において吸収を持つ物質に対して処理が期待できる。生物処理によりUV（波長200m μ 前後）感知物質の増大が著しいことには注意を要する。問題となるR-NaCl再生排水の場合、多種・多様の不純物が含まれるので、生物処理による負荷低減は困難であり、高濃度の利点を生かした処理方法を

考える必要がある。

合成総合排水については、各々の処理とも或る程度有効であったが、高度処理を考える場合、本報で考えたように各工程排水に着目して、処理方法の最適な組合せを考えることが有効となる。

(1975年4月14日受理)

参考文献

- 1) Zuckerman & Molof: J. WPCF, 42, 437, (1972)
- 2) 鈴木, 多田, 河添: 生産研究, 27, (2), 37, (1975)
- 3) 奥山: 精糖技術研究会誌, 24, 19, (1973)



正誤表 (7月号)

頁	段	行	種別	正	誤
269	左	↑11	本文	連続的に通過	連続的に通化
275	左	↓3	"	R	r

正誤表 (6月号)

頁	段	行	種別	正	誤
254	右	10	(19式)	$(\sigma + \omega)^{3/2}$	$(\sigma + \omega)^{3/2}$
"	"	16	"	薄膜源解	薄膜源解
"	"	23	"	"	"
255	左	20	(34式)	$m\omega$	m